

学校名	〇〇高等学校 海洋科学科	担当者名	〇〇 〇〇
-----	--------------	------	-------

『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

今回は「食品安全マネジメントシステム」という難しい内容に取り組んでみた。生徒は就職試験に向かって意欲を高めている状況であり、将来働きたいと自分が志望している会社の衛生管理について関心を持ち、学んでいくことができると考えたからである。HACCP、ISO22000、ISO14001、FSSC22000等々、様々なマネジメントシステムがあるが、基本的な知識を先に一通り学習した後に、思考ツール(KWL: What I know(知っていること)、What I want to know(知りたいこと)、What I learned(学んだこと))を使って、インターネットを活用して調査し、学んだことをまとめさせていった。気をつけたことは、この授業の最終目標をまず説明することである。しかし、インターネット上の情報が確かなものか、出典等をしっかり見定めて「情報の精査を行う力」も必要になることを感じた。

普段はおとなしく、授業中に自ら発言する機会の少ない生徒も、今回はペアで自分が学んだこと(調べて分かったこと)を相手に説明するという方法で、短時間(2分間)で要点を伝える難しさ、伝えきったときの喜び等々、様々な感情が芽生えたようであった。クラスの中でも普段あまり会話する機会のない友達と話すことで、あらためてその人の良い面に気づいたり、自分の良い面を相手に分かってもらえるなど、相互理解が深まる授業になったと思う。「人の意見は否定せずにしっかり最後まで聞く。」という大前提ルールのもと、一生懸命自分の言葉で表現しようとする様子が見ええた。また、回数を重ねるごとに自信をもって、相手に伝えようとする姿勢も身についてきた。

生徒は思考ツール(KWL)を使って自分たちが調べてきた内容をまとめ、自分の言葉で表現することができた。ワークシートを使って最後にまとめを行ったが、それぞれにしっかり段階的に身につけた知識にはすばらしい成果があった。その後就職試験に臨んだが、HACCP等について学んだことが、面接で自信をもって答えられることにつながったようである。

最後に、評価については、現在、パフォーマンス評価や自己評価、ポートフォリオなどを活用し、単元ごとに3観点(「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」)で行っているが、ルーブリック評価を行うことも視野に入れて研究に取り組んでいきたい。

○「教科の特質に応じた見方、考え方」を働かせた授業実践について考えたこと

「水産」の専門教科は、大学生でも難しい内容を扱っている。また、それぞれの教科が密接に関わっているのだが、なかなか生徒に伝わらない。教科の関係図のようなものを作って「見える化」することにより、生徒の理解度も上がっていくのではないかと考える。また、普通科目との関わりを考え、何のために必要な学習か、生徒に理解させることも必要だと思う。これから社会に出て、自立していくために、また、様々な場面で物事の本質をとらえ、論理的に考えて答えを導いていくために、今何が必要か、何を学ぶべきかを理解させることも必要である。